

新体育館建設基本計画（概要版）

1. はじめに

出雲市は、現在約50のスポーツ施設を有しており、スポーツ施設全体で年間80万人を超える利用者がいます。しかし、平成27年3月に策定した「出雲市公共施設のあり方指針」では、建設から約50年が経過し、耐震性、安全性等に問題がある3体育館（出雲体育館、平田体育館、斐川第2体育館）については、廃止に向けた取組を行うこととなっています。

その一方、2市5町が合併し17万都市となった本市にとって、人口規模に見合った市民のスポーツ活動の中心拠点が必要であるとの声があります。

2. 建設予定地

新体育館の建設予定地は、市の中心部に近く、主要幹線道路からのアクセス道が整備されています。一畑電車の結節点である川跡駅も近くにあることから利便性が高い場所です。

また、島根県立大学出雲キャンパスと隣接していることから、下記の様に本大学とハード・ソフト両面での相互連携が期待できます。



所在地	〒693-0073 島根県出雲市西林木町地内
敷地面積	31,700㎡
用途地域	用途地域指定なし
建蔽率・容積率	70%・200%
規制	景観形成地域・農業振興地域
災害発生時の想定	想定浸水高 0.5~3.0m
交通アクセス	一畑電車川跡駅から徒歩8分・JR出雲市駅から車11分

島根県立大学出雲キャンパスとの連携

■ハード面

- ・県立大学の駐車場（約200台）の相互利用、県立大学の体育館・運動場の利用

■ソフト面

- ・県立大学の学生等による新体育館を活用した市民のためのイベント、医療・健康管理系のイベント、健康教室・介護予防教室、タウントレッキング（まち歩き）等の開催
- ・避難所の運営支援 等

3. 基本コンセプト

(1)「スポーツする」体育館

県立浜山体育館との役割分担を行い、「17万都市にふさわしい市民のスポーツ活動拠点」として子どもから高齢者まで、様々な世代の市民が主体となってスポーツをすることができる体育館として整備します。

(2)「スポーツをみる」体育館

スポーツをする人だけでなく、観る人にも配慮した体育館とします。

(3)「スポーツをささえる」体育館

出雲市全体のスポーツを盛り上げる場のひとつとして、出雲市体育協会など、市民のスポーツ活動を支える人（団体）の拠点としての体育館とします。

(4)「市民が集う」体育館

スポーツのほか、健康づくり、憩い安らぎ等の場として、子どもから高齢者まで多くの市民が集う体育館とします。

(5)「人や環境にやさしい」体育館

バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入に努めるとともに、省エネルギー化に努めるなど、人や環境にやさしい体育館とします。

(6)「景観に配慮した」体育館

景観形成地域であることから、北山を背景とした出雲らしい田園風景に配慮しながら調和を図ったデザイン、駐車場の緑化等外構にも配慮した体育館とします。

(7)「多用途使用に配慮した」体育館

スポーツ以外にも学会や各種団体の会議、展示会等、さらに災害時の避難所など、可能な限り多用途に使用しやすい体育館とします。

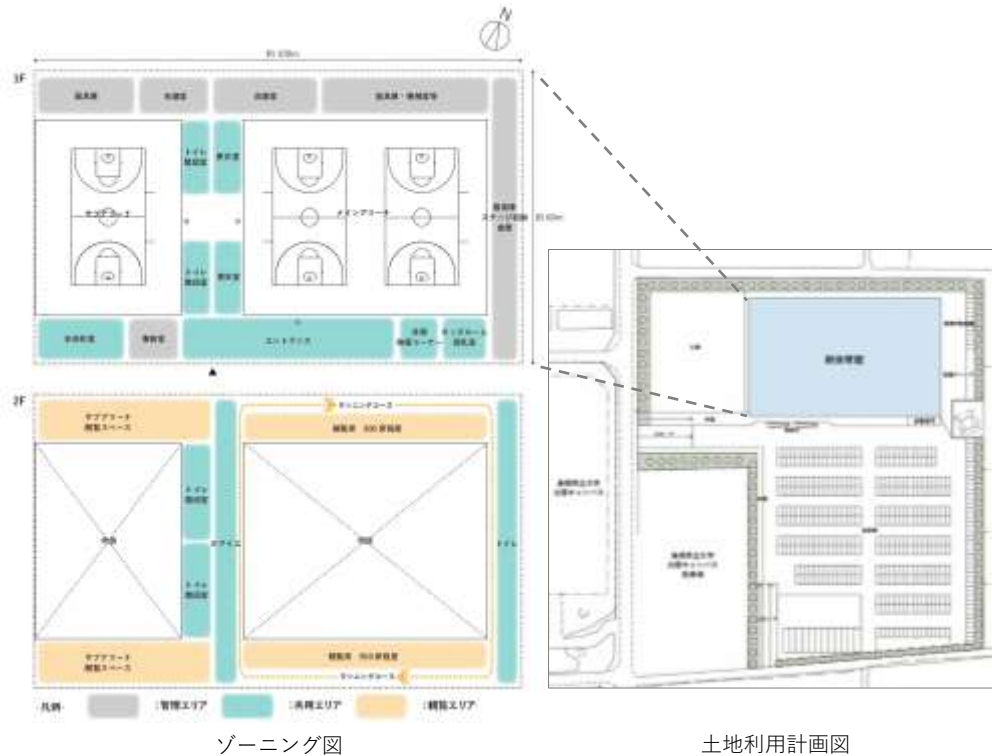
4. 施設の構成と想定規模

メインアリーナ	・50m×40m（約2,000㎡）程度 ・バレーボール2面、バスケットボール2面 ・天井高12.5m程度 ・観客席1,000席程度
サブアリーナ	・40m×30m（約1,200㎡）程度 ・バレーボール1面、バスケットボール1面 ・天井高12.5m程度
多目的室	・運動教室や各種会議、研修会に利用
ランニングコース	・健康増進や大会時のウォームアップに利用
更衣室・ロッカー・シャワー室	・各機能の配置を踏まえ設置する
器具庫・倉庫	・アリーナで実施する競技備品を収納
キッズルーム・授乳室	・授乳室、幼児の遊び場
会議室・大会役員室	・一般利用も可能な会議室
休憩室・物販コーナー	・自動販売機等物販コーナーを併設した休憩スペース
エントランスホール・ロビー	・資料展示等情報発信機能を有するオープンスペース
その他	・医務室、放送室、事務室等管理諸室 ・エレベーター ・冷暖房設備
駐車場	・400台程度

5. 施設基本計画

ゾーニング・土地利用計画

下図はあくまでもイメージであり、今後詳細設計により変更となる場合があります。



構造計画

整備予定地については、想定最大規模の洪水時に体育館が浸水しない高さを確保するため、前面道路との高低差2.0m程度の造成を行います。

また、避難所として災害時の安全が確保できる構造とします。

設備計画

競技への影響、省エネルギー、メンテナンスに配慮した設備を採用します。

6. 整備イメージ ※下図はあくまでイメージです。



7. 概算事業費

新体育館建設に係る現段階での概算事業費は次のとおりです。

なお、今後の設計や、資材・労務費の変動等により変更となる可能性があります。

委託費	約2.6億円
建設工事費	約41.5億円
造成・外構整備費	約9.1億円
その他	約4.8億円
イニシャルコスト（計）	約58億円

8. 運営方針

管理運営方針

17万都市にふさわしい施設となるよう、利用者にとって安全・安心に利用できる施設となるよう努めます。また、効率的な施設管理・運営を行い、経費削減を図ります。

維持管理・運営費

ランニングコストについては、他市の類似施設の状況を踏まえ、約0.9億円程度を想定しています。

9. 事業手法

近年、国が民間活力の導入を目指し、地方公共団体に対しても「多様なPPP/PFI手法導入を優先的に」検討するための指針を示すなど、新体育館建設にあたっては、従来型手法のほか、PFI手法等も含め検討する必要があります。

事業手法の決定にあたっては、それぞれのメリット・デメリットのほか、事業成立のための諸条件、事業スケジュールなど十分調査したうえで、今後決定することとします。

10. 事業スケジュール

供用開始は、令和6年春頃を予定しています。

設計・建設期間	2021年7月～2024年2月（32か月）
開業準備	2024年3月～2024年4月（2か月）
供用開始	2024年5月